

令和2年白老町議会人口減少に対応する政策研究会会議録

令和2年 8月12日(水曜日)

開 会 午前10時00分

閉 会 午前11時44分

○会議に付した事件

協議事項

1. アンケート調査について(ヒアリング準備) ほか
-

○出席委員(7名)

座 長	大 淵 紀 夫 君	副 座 長	佐 藤 雄 大 君
委 員	西 田 祐 子 君	委 員	氏 家 裕 治 君
委 員	長谷川 かおり 君	委 員	貳 又 聖 規 君
委 員	森 哲 也 君		

○欠席委員(1名)

委 員 久 保 一 美 君

○職務のため出席した事務局職員

事 務 局 長	高 橋 裕 明 君
主 査	小野寺 修 男 君
主 任	村 上 さやか 君

人口減少に対応する政策研究会（第4回）

【調査事項】

事務調査：人口減少に対応する政策研究について

（1）アンケート調査について（ヒアリング準備）

- 大淵座長 アンケートはどのような形で実施するとよいのか。
- 氏家委員 アンケートには町民の関心を引き出すインパクトのあるものが必要である。こういうものは作り手のやる気の差が出るものである。
- 長谷川委員 町民が人口減少に対する危機感を持っているかを聞く内容がよい。若者移住の受入体制構築につながるようにしたい。
- 西田委員 アンケートを取るのには難しいものである。様々な聞き取りなどを進めた上で最終的にアンケートを取るのがよい。
- 貳又委員 アンケートは時期を考える必要がある。地域課題を見極めて、仮説を立ててからのアンケートがよい。時期によりアンケートの内容が変わる。最初に実施すると基本項目を尋ねるものになる。
- 森委員 今の話を聞いていると実施時期の見極めが必要かと思った。
- 佐藤副座長 アンケートは最初に実施するべきである。若い年齢層を対象にインターネットでの調査が可能である。
- 大淵座長 議会における会議は、このようなやり取りの中でいかに合意を勝ち得ていくかということが重要である。自分の考えを述べることにとどまらず、全体の合意が得られるよう、建設的な話し合いを活発にしてもらいたい。
- 長谷川委員 アンケートを行うにはどれほどの期間を要するものなのか。
- 大淵座長 調査対象者を抽出するのか、郵送かインターネットで実施するかなど、方法により期間は変わる。
- 氏家委員 アンケートのつくりは回答のしやすさが重要である。
- 西田委員 私たちはアンケートに関する基礎知識がないと思う。アンケートが成立するための要件をはじめ、調査に関して勉強の必要を感じている。アンケートで何を聞き、何を得たいのか。まずそれをつかむことが必要である。
- 貳又委員 アンケートは基礎調査なら先に実施し、課題解決のためなら後に実施するのが一般的である。
- 大淵座長 事前に正副座長で事務局を含め、この件について打合せをした。アンケートはすぐに準備ができないうえに年内に実施しようと考えていた。まずは担当課からレクチャーを実施する。講演会は10月ころを案としており、9月にはその準備を行う
- 氏家委員 政策研究会の議論の中で、アンケートで何を聞くべきかを明らかにする重要性を改めて感じた。調査方法を含めてさらに検討を行う必要がある。自分たちの考えがどうなのかが先にあると思う。
- 高橋局長 人口減少は最近始まったものではなく、ずっと続いてきたものである。町民の意識はあまり深刻なものではないと思われる。人口減少に対応することの議論を通じて、政策研究会として何らかの成果を生み出すことを目指しているものだと思う。埼玉県資料を今配付した。どの段階でどのようなアンケートを実施するのかについてである。ニーズ把握のためなのか、仮説の組立てや課題解決のためなのか、目的により時期が決まってくる。
- 大淵座長 今後の流れとして、ヒアリング、講演会、アンケートという順で実施するようにはどうか。
- 氏家委員 町で実施している町民意識調査の結果を見て、さらに詳しく知りたい部分についてアンケートをとってみたいかどうか。
- 大淵座長 使える資料はなるべく生かすことである。町民の関心度は低いと思う。佐藤副座長が言うように、ターゲットをしぼることが重要になってくる。全体に配布すると多くは高齢者から戻ってくる。これまでの手法とは異なるもので取り組んでいかなければならないか。最初は全体意見で聞きたいと考えていたが、ターゲット化した方がよいかもしれない。
- 氏家委員 以前の調査では回答率に満足していたきらいがあった。今後はターゲット化と目的の

明確化を考えていきたい。

○高橋局長 アンケートのつくりにも方法があり、ろ過式というものがある。町外から働きに来て
いる人に聞いてみることも一つであると思う。

○貳又委員 アンケートの分析結果を自分たち議員が感じ取れることが重要である。アンケート結
果を項目ごとだけではなく総合的に見ていくとあぶり出されてくる部分があるため、それを捉える
必要がある。

○大淵座長 町の調査など活用できるものは活用して、その上でアンケートをつくるのがよい。町
民意識調査を基礎として、政策研究会としてさらにターゲット化、目的化したアンケートを行う。
アンケート調査のことは詳しい勉強はせずとも、基礎的な要素は押さえる必要がある。調査結果に
ついて、人に聞かれたときに答えることができるようにする必要がある。佐藤副座長と森委員の2
人でアンケート調査の準備を事務局と相談しながら進めてもらいたい。政策研究会の全体の予算は
今年度7万5,000円である。増額補正をすることはあまり考えていない。町内の20歳代から40歳
代に往復アンケートを郵送で行うと、20万円ほどかかるそうだ。

○西田委員 インターネットで調査する場合に町民か否かは分かるものなのか。

○佐藤副座長 調査媒体にもよるが、回答者が町民であるか否かについて正確な確認が取れないこ
とがある。

○西田委員 もう少しその辺りについて調べてもらえたらと思う。名簿の管理などを含めて。

○大淵座長 そのようなことを含めて検討を両名にお願いしたい。

○氏家委員 その先のスケジュールをどのようにしていくのがよいだろうか。

○大淵座長 急ぐ気はないが、問題の発見は年内にめどをつけたい。専門的なことは年明けから取
り組みたい。大枠ではそのような予定として、臨機応変に進めたい。

(2) 講演会について

○大淵座長 講師への謝礼の予算は3万円程度である。正副座長及び事務局で打合せをした。正式
な講演は大変であるため、道職員の専門的な人に話を聞くか、アイヌ民族文化財団の今井氏に依頼
するかという話になった。10月頃の実施で依頼できるか打診したい。

○西田委員 講演会の規模はどれくらいなのか。

○大淵座長 基本的には政策研究会委員であるが、ほかの議員と役場職員を加えてはどうかと思う。

○氏家委員 小磯氏の話が印象に残っている。地域課題を認識していて、なぜ手を付けられないの
かという話であった。地域課題とはその地域の人たちにしか解決できない事柄である。

○大淵座長 小磯氏であれば謝礼が10万円ほどとなる。今年は予算内で取り組みたい。

○西田委員 道庁関係の人がよい。具体的な手法について学べるであろう。

○大淵座長 OBの人で専門的な話を講演してくれる人はいるだろうか。

○高橋局長 探して紹介してもらうことが出来るかもしれない。

○大淵座長 8月31日の政策研究会までに当たりを付けられないか。11月頃に講演会を開催する
方向でよろしいか。(一同：よろしい。)

(3) レクチャーについて

○大淵座長 8月26日は全員協議会が開催される予定のため、8月31日10時より、企画課による
レクチャーを「白老町の自然増と社会増を勝ち取るための戦略について」と題して実施したい。他
課が必要に応じて出席するのは構わない。

○西田委員 複数課にまたがって出席してもらうのか。

○大淵座長 企画課に出席してもらうわけであるが、企画課が必要とする課に出席してもらうこと
が考えられる。あまり幅広く呼ばない考えである。8月31日に実施し政策的なことを聞く。

○大淵座長 今後のスケジュールとして、各企業に出向いて話を聞くとより検討が具体的になると
思う。問題の発見までの間に出向くべきであろうかと思う。ナチュラルサイエンスなど、企業訪問
の準備についてはどうか。

○西田委員 代表の方と話をする必要があると思う。アンケートの前か後かに。

○氏家委員 進出企業との懇談が必要である。4、5社くらいになるか。長年ある企業との懇談も
必要である。

○西田委員 ケンコーマヨネーズの下請け会社やフォーレはどうか。

- 氏家委員 白老町が今後取り組むことの中で、農業、製造業、漁業など、カテゴリー別での検討はどうか。目的は白老町の人口減少をどこで食い止めるかである。
- 大淵座長 人口の自然増と社会増のために話を聞く。そのような切り口で入り、対応策を導き出す。企業の代表者・人事担当者と話すと、重要な話が聞けるかもしれない。何をすれば人口を増やせるのかをきっちり見つけ出して政策化することが重要である。
- 高橋局長 企業と懇談するなら担当者を決めた方がよいと思う。
- 大淵座長 次回以降それについて方向性を出すため、たたき台をつくることにする。ルールづくりをして、準備を進めたい。